

Colonial Cities

都市史学会大会2017東京

植民地と都市 そして地域

本シンポジウムでは、従来、植民地統治の拠点として支配・被支配の二項対立的な立場から語られることの多い狭義の植民都市論に対して、世界史的にも地域と時代を広げた対象をもとに、移民の様態、都市と農村あるいはプランテーションとの関係、様々な社会集団や住民構成など都市の内部構造、クレオールな都市そして異文化の融合、原住民社会と域内交易圏など地域ネットワークの形成、それらと地理的空間や都市計画・都市空間との関係などを論点に新たな「植民地都市」像を構想したい。

2017年12月9日(土)+10日(日) 東京理科大学葛飾キャンパス 講義棟101教室

プログラム

9日(土) 13:00-18:00

研究発表 司会=石榑督和(東京理科大学)

都市史学会総会(会員のみ)

記念講演 | 藤森照信(江戸東京博物館)【16:30開演】司会=大田省一(京都工芸繊維大学)

懇親会 18:15より管理棟食堂2階にて(事前予約制、詳細はウェブサイトをご確認ください)

10日(日) 10:00-17:30

シンポジウム=植民地と都市そして地域 司会=伊藤裕久(東京理科大学)

趣旨説明:伊藤裕久

植民地都市の広がり(問題提起) | 伊藤 毅(東京大学)

ラングーン都市形成と移民—「東南アジア」と「南アジア」のあいだ | 長田紀之(ジェトロ・アジア経済研究所)

近世アイルランド(アルスタ)の植民都市—「市場」と「文明」 | 勝田俊輔(東京大学)

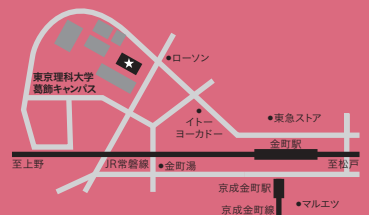
近世フランスの植民都市とカリブ海域—研究整理と論点提示 | 坂野正則(上智大学)

アルジェ・植民都市計画の変遷—モダニズムの地域性 | 松原康介(筑波大学)

居留地と遊廓社会—横浜・大阪・東京を素材に | 佐賀 朝(大阪市立大学)

コメント:吉澤誠一郎(東京大学)

9日の総会以外には非会員の方もご参加いただけます。なお、両日共通の参加費として会員の方からは2,000円、非会員の方からは2,500円を頂戴いたします。



東京理科大学葛飾キャンパス
125-8585 葛飾区新宿6丁目3番1号
JR常磐線金町駅/京成金町線京成金町駅下車、徒歩10分

お問い合わせ=2017年度都市史学会大会実行委員会 convention2017@suth.jp Tel/Fax: 03-3609-7368
125-8585 葛飾区新宿6-3-1 東京理科大学工学部建築学科 伊藤裕久研究室気付 <http://suth.jp>

都市史学会
Society of Urban & Territorial History